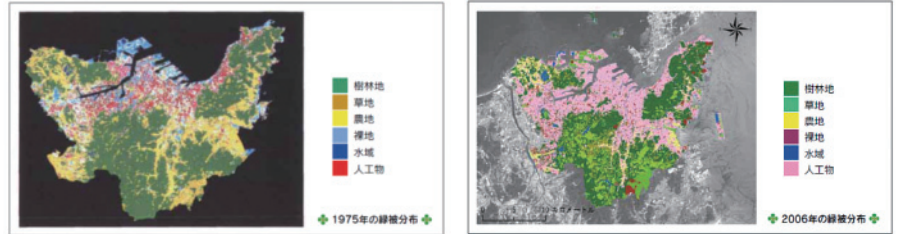


3 本市の生物多様性の4つの危機

平成24年に閣議決定された「生物多様性国家戦略2012-2020」では、生物多様性の重要性が示される一方で、生物多様性の危機も示されています。危機の種類として、以下の4つの危機が指摘されています。

1. 第1の危機(開発など人間活動による危機)

第1の危機は、開発や生物の捕獲など人が引き起こす負の影響要因による生物多様性への影響をいいます。例えば、沿岸部の埋立による開発や森林の伐採などは生物にとって生息・生育環境の変化をもたらします。

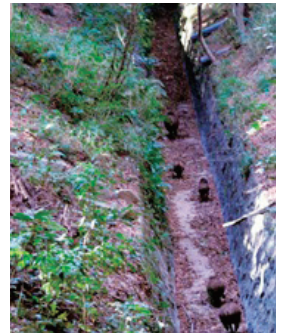


緑被分布の変化 (左1975年、右2006年) (「北九州市緑の基本計画」より)

2. 第2の危機(自然に対する働きかけの縮小による危機)

第2の危機は、第1の危機とは逆に、自然に対する人間の働きかけが減ることによる影響をいいます。

里地里山を例にすると、採草地や雑木林などの多様な生態系が広がっていました。しかし、過疎化や高齢化などによりこれら土地への管理に手がまわらなくなり、採草地や雑木林が森林に遷移することで生態系の多様性が失われてしまいます。



足立公園で目撃されたイノシシの子供

3. 第3の危機(人間により持ち込まれたものによる危機)

第3の危機は、人間が近代的な生活を送るために、本来はそこにいなかった外来種(外来生物)や化学物質などを持ち込んだことによる危機をいいます。例えば、外国原産の生物が観賞用などで持ち込まれ、それらが野外に放たれ定着することで、従来の生態系が失われてしまいます。



ウシガエル

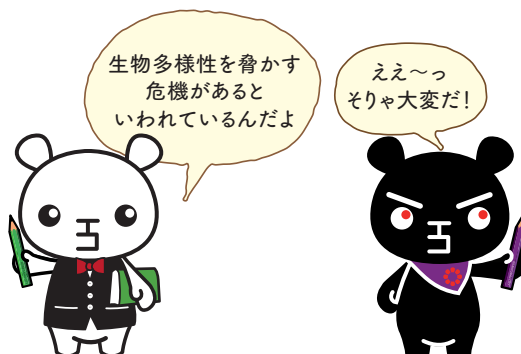


オオキンケイギク

本市で生息が確認されている代表的な特定外来生物
ウシガエル写真:環境省提供

4. 第4の危機(地球環境の変化による危機)

第4の危機は、地球温暖化などによる地球環境の変化による生物多様性への危機をいいます。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次報告書によれば、今後の地球温暖化により多くの動植物の絶滅リスクが高まることなどが示唆されています。



洞海湾の試験用生簀で確認されたナルトビエイ